1. 石巻におけるNPO、ボランティアの貢献

—2011年3月11日14時46分、東日本大震災　発災—

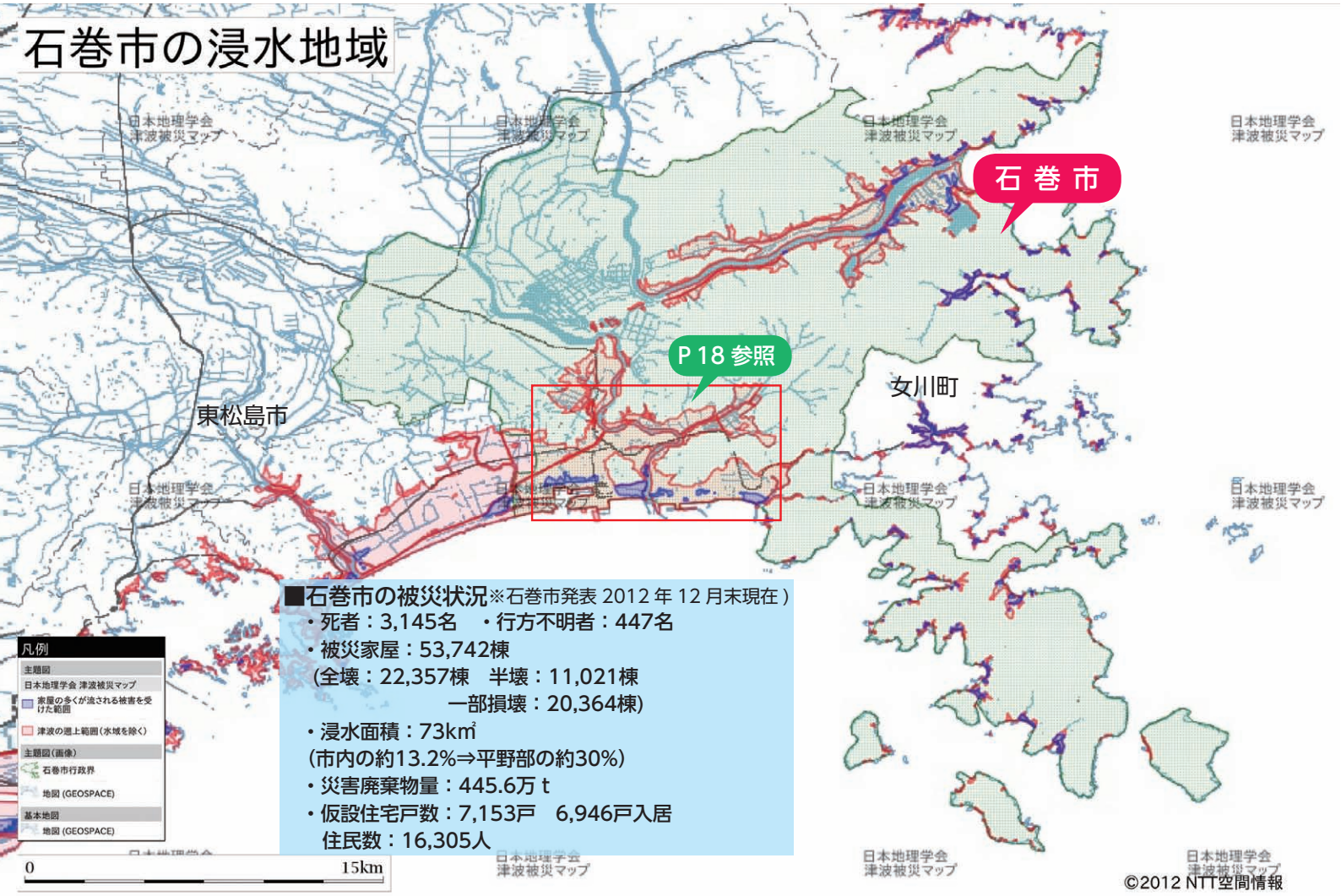
大津波の被害は想像を絶するものとなり、最大規模の被災地となった石巻市の死者・行方不明者は3,592名（石巻市発表）におよびます。

津波によって失われたものの大きさは、語る言葉も見つからないほどで、一人の人間に出来ることは限りなく小さく思えました。

そんな中、全国からの励まし、物資、寄付が集まり、1995年の阪神淡路大震災以降、災害の度に全国から駆け付けたNPOやボランティアも、被災地へ向かいました。

被害の甚大さに茫然と立ちすくむ被災者の前に対して必要な物資や温かい食事を直接届け、医療やマッサージなどのサービスを提供し、そして、圧倒的な量の瓦礫やヘドロを黙々と片付けてゆくＮＰＯとボランティア。

災害後の不便で制約の多い環境下に滞在場所や食料など全て「自己完結」で被災地に駆け付けたボランティアの存在は、被災者一人一人があの大震災から一歩を踏み出すための力にもなりました。



■石巻市の被災状況※石巻市発表 2012年12月末現在）
- 死者：3,145名　・行方不明者：447名
- 被災家屋：53,742棟
  (全壊：22,357棟　半壊：11,021棟
  一部損壊：20,364棟)
- 浸水面積：73km²
  (市内の約13.2%⇒平野部の約30%)
- 災害廃棄物量：445.6万t
- 仮設住宅戸数：7,153戸　6,946戸入居
  住民数：16,305人

1-1. NPO、ボランティアのチカラ

ＮＰＯ：この報告書におけるＮＰＯという単語は、ＮＰＯ法人はもちろん、一般社団法人や、企業のＣＳＲ活動、法人格を持たない任意団体、有志の集まり、ボランティア団体等を含めた広い意味での「非営利団体」を指す用語として使用しています。

IDRAC：石巻災害復興支援協議会の英語名称（Ishinoamki Disaster Recovery Assistance Council）の略称です。

震災直後から、災害支援経験豊富なＮＰＯが石巻に徐々に集まり、物資配布、炊出し、泥出しなどの活動が始まりました。

そして、石巻市災害ボランティアセンターの声掛けにより、3月20日に各団体の活動を情報共有するために「ＮＰＯ・ＮＧＯ連絡会」が始まりました。

ＮＰＯ、ボランティアによる連携が目に見える形となったのは、4月10日の街なかスマイルプロジェクト（街なか清掃）。

自宅や店、道路に広がる瓦礫やヘドロに直面していた石巻住民の前で、各地から集まった1,000人近くのボランティアがみるみるうちに瓦礫を片付けてゆく光景は、「連携」が確かな力になることを感じさせてくれました。

ＮＰＯやボランティアは基本的に自主的な活動を行うため、その全体像把握は難しいのですが、石巻では4月2日に「ＮＰＯ・ＮＧＯ連絡会」が「石巻災害復興支援協議会（IDRAC）」へと名称を変え、5月13日に法人化した以降も、多くの方々の協力によって情報共有の場と連携体制を継続することができました。

その貴重なデータを元に、石巻でＮＰＯが果たした成果や役割を次ページから紹介させていただきます。

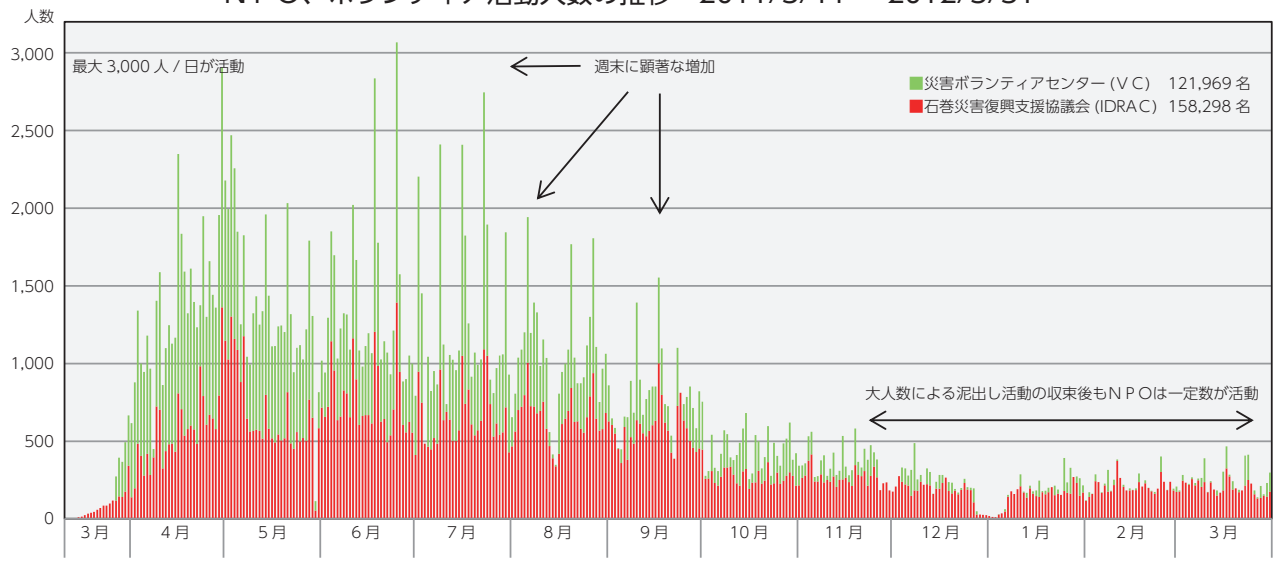
ＮＰＯやボランティアの力が広く社会に認知され、今後の災害救援活動における担い手として位置付けられるように。

1-2. 活動人数、活動内容の推移

災害ボランティアセンター（以下、ＶＣ）との連携が初期から上手く機能したこともあり、ＮＰＯも大規模な活動が可能となった石巻市。

発災から約1年間で、のべ**28万人**（石巻市人口の約1.5倍）を超える方々が、ＶＣによる派遣、もしくはＮＰＯのもとで石巻地域における震災支援活動に取り組みました。

ＮＰＯ、ボランティア活動人数の推移　2011/3/11 ～ 2012/3/31



石巻には毎日百人単位で活動するＮＰＯが複数存在していた上に、ＶＣも積極的なコーディネートを行い、1年間でのべ28万人を超える大規模な受け入れが可能となりました。

週末には平日の数倍に当たる3,000人程が活動する日もありました。沿岸部も含めて地域のニーズを調査したＮＰＯのリーダーが毎日の会議でＶＣと密な調整を行い、週末ボランティアの受け入れに協力することで、毎週末の活動希望者数の変動にも柔軟に対応しました。

また、石巻災害復興支援協議会がＮＰＯの登録制度を持ち、ＮＰＯの活動内容や規模を共有する「全体会」という場が石巻専修大学に設けられ、石巻全域にわたる活動の把握につながりました。

石巻災害復興支援協議会の受入人数算出根拠

1）全体会で報告された各分科会の活動人数を集計し、分科会に該当しない活動を行っている大規模団体からの別途報告を加算したもの。
2）ＮＰＯからの報告・訂正により、全体会議事録や災害対策本部への実績報告とは誤差がある。

注記事項

1）ＩＤＲＡＣに登録していても全体会やメールでの報告のない団体については、カウントしていない。
2）初期にＶＣ経由でＮＰＯへ派遣された場合にＶＣ活動人数　と重複があったが、可能な範囲で修正。
3）特に平成23年3月は人数報告のシステムが確立していなかったため、把握できる範囲でしか集計できていない。
4）ＮＰＯの有給スタッフ分を活動人数に含めて報告するかどうかは団体の判断によっている。

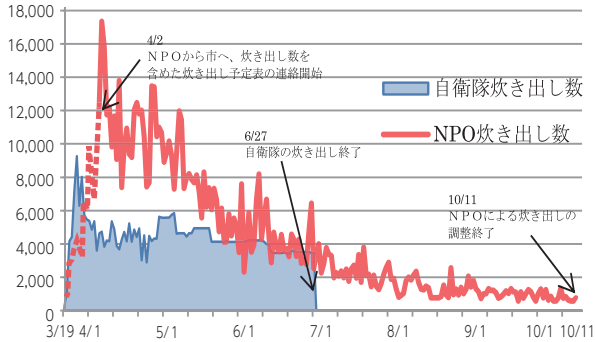
■ 炊き出し数の推移

炊き出し調整役の不足は他被災地域のＶＣでも課題であり、外部団体に調整役を託した市町ＶＣが多くありました。

石巻でも炊き出し調整業務を引き受ける団体の申し出があり、ＶＣによるボランティアのマッチングとは別の担当者により炊き出し調整が開始されました。

自衛隊に匹敵する最大1.7万食/日を超える炊き出しは、行政・自衛隊より信頼を得る一因にもなりました。緊急期を過ぎた避難所においては自立を妨げないよう自主調理を促す配慮も行い、行政と情報交換しながら徐々に数量を減らし、市内の避難所閉鎖（10月11日）をもって調整を終了しました。

行政（自衛隊）とＮＰＯによる炊き出し数の推移



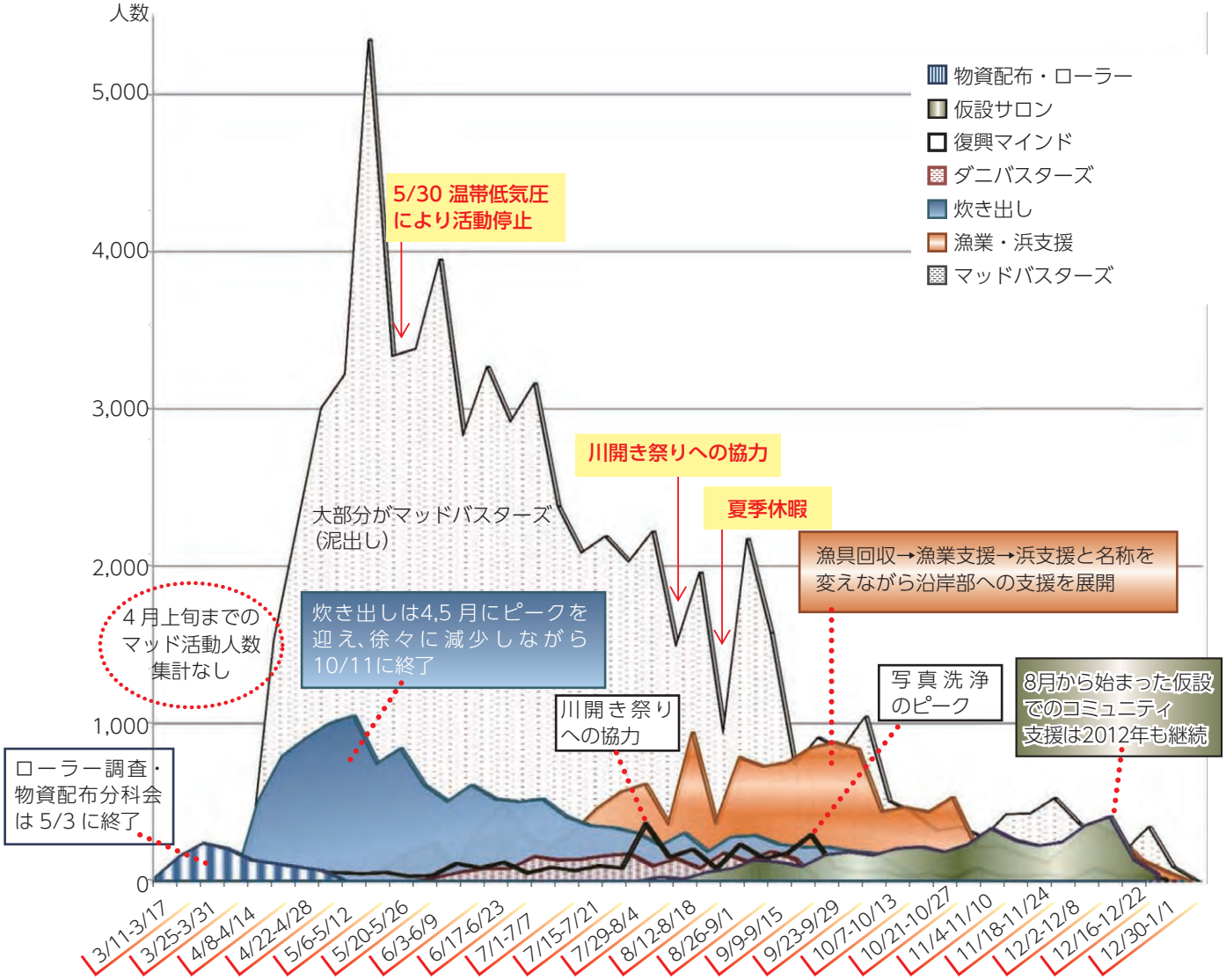
※ＮＰＯによる炊き出し数は、事務局の調整を経て市へ連絡していた炊き出し予定数を元に計上しています。
（4月1日以前は個別聞き取り等により確認できた提供食数のみを点線表記。
提供内容は汁物･麺類･スナック等バラエティに富んでおり、震災直後に初めて提供された温かい汁物も、困窮期を過ぎた後の盛夏のかき氷も「1食」と計上。）
※データ提供を快諾下さった市産業部および自衛隊の方々に心より感謝申し上げます。
※引用等をご希望の方は発行元へのお問い合わせをお願いいたします。

■ 各分科会の活動人数推移

「現場のニーズにマッチした支援」「復興のフェーズに合わせた支援」という言葉の通り、長期滞在するＮＰＯのリーダー達が被災した市民と密にコミュニケーションをとり、支援の必要な場所やその内容をみい出し、他団体と共有・連携しながら様々な活動を展開していました。

石巻では多岐にわたる活動が行われ、活動分野ごとに「分科会」（P17, 18参照）がもうけられました。その中でも大多数を占めたのが「マッドバスターズ」と呼ばれた泥出し・瓦礫出し・家屋清掃に類する活動でした。ＶＣによるコーディネートで最も大規模に活動が行われ、迅速に泥出しが進んだことから、10月には活動規模が収束し始めました。

1 週間ごとのＮＰＯ活動人数の推移　2011/3/11 ～ 12/31



マッドバスターズ以外の分科会活動人数の推移からも、現地ニーズの変化に応じてＮＰＯが活動や規模を柔軟に変えてきたことがわかります。ローラー・物資配布分科会は行政による在宅コミュニティでの配布開始を受けて5月に終了し、「ダニバスターズ」は　梅雨の時期から避難所が解散するまで活動しました。復興に向けた気持ちを鼓舞する「復興マインド」ではお祭りを支援するなどＮＰＯらしい活動を展開しながら、8月から仮設住宅での支援が開始され、2年目も一定数が活動しました。

※本ページのグラフは、ＮＰＯによる活動内容の大まかな推移を表すものです。
　全体会での報告の他、各団体からの個別報告や、仮設サロン支援連絡会を通じた報告から１週間ごとの活動人数を出来る限り正確さを期して集計し、活動規模の大きな分科会のみをグラフ化しました。
※グラフに表示していない分科会や、私たちの情報共有が及ばない範囲でも、多様な活動が展開されました。
※引用等をご希望の方は発行元へのお問い合わせをお願いいたします。